

令和3年度 事業報告書
令和3年1月1日から 令和3年12月31日まで

一般社団法人マミリア

1. 今年度の総括

法人設立後、最終目標である若者の貧困問題の解消に向けてプログラミングを利用したプラットフォーム事業設立の為に準備を行った。また、コロナ禍の為に、相談業務のできない法人・福祉施設に向けてシンプルにビデオ面談のできるシステム「テレカン」を開発し無償提供を行う。任意団体から行ってきた居宅訪問託児事業については個人の受け入れを縮小し、対法人にむけた託児事業を継続する。

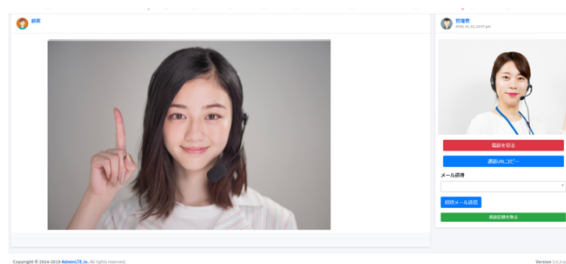
2. 各事業の概要

(1) 子育て支援事業

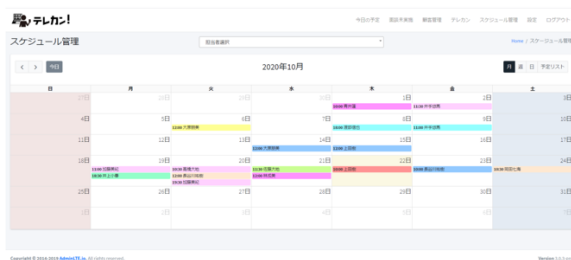
- ① 居宅訪問託児及び法人向け託児事業の実施
- ② スタディマミリアの事業実施準備
(ホームページ・SNS・カリキュラム・Slack等の準備)

(2) その他の事業 (非営利事業)

- ① ビデオ面談システム「テレカン」の開発及び無償提供
通話画面



スケジュール管理



その他顧客管理機能・カルテ機能・メルマガ機能を搭載

(3) その他の事業（営利事業）

実施なし

3. 団体運営状況の概要

(1) 会員に関する事項

変更なし

(2) 財政に関する事項

次年度は助成金の取得を目指し、プログラミングプラットフォームの事業運営を行う

(3) その他に関する事項

特になし

4. 次年度の課題

プラットフォーム事業「スタディマミリア」の実施を目指す。

スタディマミリアについて...（以下次年度申請書より抜粋）

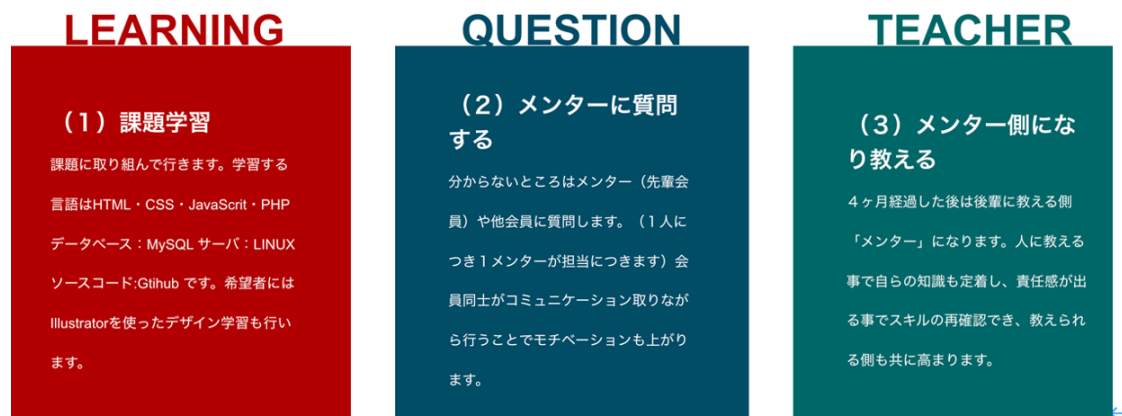
本事業は、若者の相対的貧困の問題を解消すべく、安価でプログラミングを習得する事を可能とした、相互学習(ピアラーニング)のプラットフォームを開設し、どんな家庭に生まれてもプログラミングを習得できる仕組みを作る。これにより若者の収入の底上げを行う事で貧困問題(経済的生きづらさ)を直接的に解消する。

←

【ピアラーニングでのプログラミング学習とは】

講師はごく少数で、先輩の会員(以下称:メンター)が、後輩の会員を教え、その後輩の会員が成長した際は先輩となりメンターとして、今度は新規の会員教えるという「ピアラーニング」と呼ばれる相互学習方法で会員同士が教え合う学習方法。

←



※上記画像はピアラーニング学習を可視化したもの

また、講師が少人数の為非常に安価に事業運営を行うことができ、安価に習得できる為、他の社会福祉法人の事業モデルとしても期待できる。

【行う理由(社会背景)】

【社会背景-学歴社会からスキルの社会へ-】

「いい大学に合格して、大企業に入社すれば人生勝ち組」以前は終身雇用がありそんな社会だったが、終身雇用は崩壊しつつあり、これからはスキルを重視される社会となっている。クラウドと呼ばれる技術は日々進化を遂げ、コンピュータが人間の代わりに仕事をするそんな時代、システムエンジニアのニーズが非常に高くなった。

←

【社会背景-IT人材の人材不足-】

しかしIT人材は現在31万人不足しており、2030年には最大で79万人不足すると経済産業省の発表がある。これはITのプログラミングの技術は専門性が高く、独学では習得しづらい為、人材不足が拡大している。(独学でエンジニアを目指す場合の挫折率:87.5%(2019年PRTIMES調査))

←

【社会背景 -エンジニアは高収入であり人気の職業-】 ←

そんなエンジニアの平均年収は542万円となり平均と比較しても140万円高い。その理由は ←

・ 専門的な職業柄・IT業界の人手不足・IT業界の拡大にある。また、コロナ禍でもオンラインで働ける為、更に人気を高めている。 ←

←

【社会背景 -エンジニアは地方格差にも強い職種-】 ←

「地域格差」と呼ばれ、東京の平均年収が614万円に対して、沖縄の平均年収は331万円と283万円もの差があり、国政でも取り上げられるこの問題に対しても、エンジニアという職種はフルリモートにて勤務が可能な為、地方に住みながら東京の企業に就職する事が可能である。 ←

←

社会背景[課題] ←

【社会背景 -高額な学費問題-】 ←

専門性の高さから、独学でのプログラミング習得は難しく専門学校の入学やプログラミングスクールへの入学の必要性が高い。しかしこれらの学校の学費は非常に高く、低所得では習得できないという現状がある。また、地方に住んでいる場合収入は少ない為、高額な学費は払えない。 ←

[参考学習費用] ←

専門学校：平均150万円(2年) プログラミングスクール：平均70万円(1年) ←

←

コロナ再拡大が心配される中でエンジニアへの転職を希望する若者が多くいるが、学費が高額な為断念せざるをえない現状。 ←